

当院における Mycobacterium tuberculosis の MIC 分布

中元 理絵, 山本 剛, 阪下 哲司 (西神戸医療センター)

【目的】本邦で行われている Mycobacterium tuberculosis の薬剤感受性試験は、従来から卵培地を基礎とする小川培地法によるものが殆どであるが、近年の検査技術の向上や改善とともに迅速かつ正確な新しい薬剤感受性試験を行うものが増加してきた。今回我々は、微量液体希釈法を原理とする方法で当院で検出された M. tuberculosis の MIC による薬剤感受性動向を調査したので報告する。

【方法】対象は 1999 年 6 月 1 日から 200 年 12 月 31 日まで当院で検出された M. tuberculosis 284 株について微量液体希釈法を原理としたプロスミック MTB- (極東製薬工業) を用い、SM, KM, EB, INH, RFP, CPFX, LVFX, SPFX の各種薬剤について薬剤感受性を測定し MIC を求めた。

【結果】検討に用いた 284 株における各種薬剤の MIC₅₀ は SM 1 μ g/ml, KM 2 μ g/ml, EB 1 μ g/ml, INH 0.5 μ g/ml, RFP 0.03 μ g/ml, CPFX 0.25 μ g/ml, LVFX 0.25 μ g/ml, SPFX 0.125 μ g/ml で MIC₉₀ は SM 16 μ g/ml, KM 4 μ g/ml, EB 4 μ g/ml, INH 2 μ g/ml, RFP 0.125 μ g/ml, CPFX 0.5 μ g/ml, LVFX 0.5 μ g/ml, SPFX 0.25 μ g/ml であった。その

うち MDRTB は 10 株あり、その分離菌における SM, KM, EB, CPFX, LVFX, SPFX の MIC₅₀ は SM 1 μ g/ml, KM 2 μ g/ml, EB 4 μ g/ml, CPFX 0.5 μ g/ml, LVFX 0.5 μ g/ml, SPFX 0.25 μ g/ml, MIC₉₀ は SM >128 μ g/ml, KM 64 μ g/ml, EB 8 μ g/ml, CPFX 4 μ g/ml, LVFX 2 μ g/ml, SPFX 2 μ g/ml であった。

【結語】今回は M. tuberculosis における薬剤感受性動向を調査した。MDRTB は全体の 3.2% 検出された。検出された菌株のほとんどが INH や RFP の薬剤感受性成績は良好であった。MDRTB についてはニューキノロン薬の薬剤とともに MIC の上昇は認められなかったがアミノグリコシド系薬剤は MIC の上昇が認められた。本法による薬剤感受性成績は NCCLS M24-T2 と高い相関性を示し、判定日数も速く有用性の高い方法である。当日はこれら分離された菌株の臨床的な背景などについてもう少しまとめ報告する予定である。

連絡先 078-997-2200